

平成25年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会  
第2回環境部会での質問に対する回答について

第2回環境部会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

---

○質問－1

説明資料「1－3 橋梁構造面に関する評価」について、ライフサイクルコスト、維持管理性、耐久性の評価が指標として重複しているように思いますが、このような構造の比較評価を行う時に用いる基準があるのでしょうか。

◆回答－1

説明資料における構造面の評価項目は、吉野川渡河橋梁が河口部といった特殊条件下の橋梁整備であることを踏まえつつ、橋梁部会にて設定いたしました。なお、一般的に、安全性、施工性、経済性、耐久性、走行の快適性、維持管理、景観を考慮し、その総合的判断に基づき行われています。

---

○質問－2

第1～3案の浚渫について、浚渫量は第3案が最大ですが、浚渫の期間も含めて考えた場合は、環境に与える影響は、どの案が一番大きいのですか。

◆回答－2

説明資料の p. 5、p. 17 に示すとおり、第3案の浚渫期間が最も長く、浚渫規模も大きいことから、環境に与える影響は第3案が最も大きいと考えます。

---

○質問－3

橋脚による洗掘がこれだけ生じたら（河口干潟への影響はなしと説明がありましたが）干潟の土砂は洗掘部に移動すると考えるのが自然ではないですか？

◆回答－3

説明資料の p.19 に示すとおり、河口干潟部に及ぼすような地形変化は生じないと考えております。

---

○質問－4

「みお筋」は、生物多様性維持のためには大きな要因になると考えられていますが、それは、専門委員の先生方の評価なのですか？

◆回答－4

みお筋も含めた吉野川河口域全体が、多種多様な希少生物が生息・生育し、環境保全の観点において重要な場所であると認識しています。その認識に基づき、検討会を実施しているところです。

---

○質問－5

<バックアップ領域>の存在については、しらさぎ大橋の調査データにたよるのではなく、橋建設部のデータが全くないなかで説明しているのはとても変だと云うことなのではないですか？データなしの想像での説明はおかしい！！

◆回答－ 5

第1回環境部会でお示ししたとおり、平成25年6月に渡河部周辺で実施した底生生物調査と、先行事例である阿波しらさぎ大橋建設事業の調査結果を併せて、底生生物のバックアップ領域を推測しました。バックアップ領域の確認調査等については、委員からのご指導・ご助言をいただきながら実施していきたいと考えております。

○質問－ 6

H16年？の大出水の時の左岸側のしらさぎ大橋橋脚部の洗掘部分には右岸側のしゅんせつ土砂をほり込んで埋めたことも、深掘れ回復の要因ではないですか？

◆回答－ 6

阿波しらさぎ大橋建設事業では、河口干潟と住吉干潟間で浚渫した土砂を左岸の橋脚周辺部へ埋め戻したことを確認していますが、深掘れ回復については、自然による埋め戻し作用が大きいものと考えています。

なお、参考資料のp.17に示したとおり、平成16年度に大きく変化した地形は、浚渫土砂の埋戻し(H18.4)以降でも、自然の作用により橋脚周辺部の局部洗掘された地形の埋め戻しが確認されています。

○質問－ 7

南海トラフ対策のためには、早期完成すべきという理由をきちんと説明してほしい。地震がきたら、津波ではこのような人工物は障害になるのではないですか？

◆回答－ 7

橋梁の上部工(橋桁)は、南海トラフ巨大地震による徳島県想定最大の津波高より高い位置にあり、支障になるとは考えておりません。

○質問－ 8

しゅんせつしないといけないところに橋脚を設置しない他の案も検討すべきではないでしょうか？橋脚はなぜ均一にするのですか？

◆回答－ 8

第1回環境部会において、浚渫が必要な浅瀬を避けた橋脚配置をおこなうとした場合の橋梁形式について議論させていただきました。この場合、鳥類への飛翔阻害が大きい吊構造の上部工形式が必要になることから、この案は見送られています。また、橋脚配置については、橋脚施工による浚渫を極力少なくするため、最大支間長での均等割りにて計画しております。

○質問－ 9

科学的データなしの議論で3つの案についてのみここで決定するのはおかしい。本日の先生方の議論はなんだったのですか？

◆回答－9

検討会及び各部会における各委員からの助言・指導を得ながら進めているものです。

○質問－10

シギ・チドリなど鳥のデータも一切なしに（出されたのはしらさぎ橋のデータのみ）イメージだけで、鳥への影響を議論し、生物の調査データも一切示さずに議論して、どの橋の案がいいと結論づけるのは変です。とてもおかしいです。架空議論しているのだからいろいろ議論が分かれています。あいまいになるのは当然、専門家の先生方にも失礼ではないですか？何故調査データがないのですか？データを示さないのは作弄的だと思われても仕方がないのではないですか？

◆回答－10

第1回環境部会でお示したとおり、平成25年5月に渡河部周辺で実施した鳥類調査と、先行事例である阿波しらさぎ大橋建設事業の調査結果を併せてご報告（第1回環境部会参考資料：<http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h25/0913/pdfs/03-2.pdf>）させていただいております。また、道路構造検討方針や橋梁形式案についても、委員からのご助言・ご指導を頂きながら進めさせていただいているものです。

○質問－11

たとえば「タビラクチ」が橋建設周辺のどこにいましたか？（バックアップデータとして）おしえてください。

◆回答－11

現時点において渡河部の調査では魚類調査は実施しておりません。ご質問の「タビラクチ」については先行事例である阿波しらさぎ大橋建設事業で実施した魚類調査にて確認された種です。魚類のモニタリング調査計画については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

○質問－12

これだけしらさぎ大橋のデータを活用しているのだからしらさぎ大橋周辺も含めて鳥のモニタリング調査を（バックアップ領域として）するのは当然だと考えますがいかがですか。

◆回答－12

鳥類のモニタリング調査計画については、今後の環境部会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

第2回環境部会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

配慮すべき「鳥類」が減少する要因の1つである中州の環境変化に対する橋建設の影響が少ないだろうということは理解できています。その上での話ですが、鳥類の増減に関係するという意味でも中州や河口域の重要性はとて高いと思います。橋が二つできることによる未知な影響を今後モニタリングし、保全し続けるために、継続性を持たせるために、県の環境首都課の出席を望みます。検討していただけたら幸いです。

◆回答－1

本検討会は、高速道路事業者で実施する環境保全対策の検討を目的としており、オブザーバーとして徳島県の高規格道路課に参加いただいているところです。本要望につきましては、事務局より徳島県の環境首都課へお伝えいたします。

○意見・要望－2

「自然のゆらぎ」という語句が、ひんぱんに出てきますが、具体的な要因等を示して、説明してください。これは県内外のHPを見た人から多くの疑問です。

◆回答－2

自然のゆらぎとは、ある環境が様々な自然の影響を受けて日々変化することを意味しており、本資料における自然のゆらぎは、主に吉野川河口域における自然的要因（波浪、潮流、河川流等）の影響による河床地形の変動を意味しております。

○意見・要望－3

しらさぎ大橋の洗掘の説明について、左岸側は橋脚部分は明らかに深掘れをおこしたままであると見てとれます。NEXCOは洗掘はないと云いきって説明されていましたが明らかに変です。

◆回答－3

説明資料のP23で示すとおり、先行事例の阿波しらさぎ大橋建設事業の地形測量結果から洪水時に生じた洗掘箇所では土砂が堆積する傾向にあることを報告したところです。

○意見・要望－4

はじめに案の設計ありきで、環境評価をNEXCOが説明してしまうには、とても異和感を感じます。

◆回答－4

説明資料のP33以降の「環境要素の評価」では、橋梁形式第2案の場合に予想される影響をとりまとめており、記載上は「影響の評価を以下にまとめる。」としました。この点については、部会中に委員よりご指摘があり「影響の検討結果を以下にまとめる。」と修正したところです。なお、「環境要素の評価」があらかじめ橋梁形式（第2案）で取りまとめられているのは、これまでの部会での議論を踏まえ、事務局にて提案させていただいたものです。

○意見・要望－5

アセスメントとモニタリングの違いもきちんと理解してください。

◆回答－5

環境アセスメントは、主として環境に著しい影響を及ぼす恐れのある行為について、事前に環境への影響を調査、予測、評価、その結果を公表し、環境配慮を行う手続きの総称です。なお、平成6年10月に徳島県より事業実施場所の環境影響評価書が作成・公表されております。本検討会のモニタリングは、事業の影響を監視・追跡することと考えております。

○意見・要望－6

国際的に評価の高い、まさにホットスポットである河口域について、河口域の中で他にもいっぱいあるから、ここぐらい橋をとおすぐらい、いいじゃないかといつも NEXCO のご説明はきこえます。とても理解に苦しみます。

◆回答－6

吉野川河口は、環境保全の観点において重要な場所であると認識しております。事業者ができる対応として周辺環境への負荷が極力少なくなる様な環境保全対策を引き続き検討していきます。

○意見・要望－7

指標種の議論について、他にもいるからいいじゃないかと云っているのに異和感を感じます。マリンピア沖洲埋立によって沖洲のフジノハナガイの生息地は失われました。月見ヶ丘にいるからいいじゃないかと云って、月見ヶ丘をつぶし、小松海岸にいるからいいじゃないかと云って、そうやってどんどんつぶされてきたこと、ためいきがでます。もっと科学的データをもとに議論していただきたいです。

◆回答－7

吉野川河口は、多種多様な希少生物が生息・生育し、環境保全の観点において重要な場所であると認識しています。その認識に基づき、事業者が対応可能な環境保全対策について引き続き検討してまいります。なお、環境保全対策につきましては、今後の検討会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら判断していきたいと考えております。

○意見・要望－8

1・2・3案の建設コストを示してください。

◆回答－8

各案の具体的な建設コストの提示は、公共調達の観点など、今後における事業の適正な遂行に支障を及ぼす恐れがあることから控えさせていただきます。なお、四国横断自動車道 徳島東から徳島ジャンクション間の工事予算（総事業費）は、59,398百万円にて事業許可を得ております。弊社ホームページからもご確認いただけます。

([http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/covenant/permission/h23\\_0328/pdfs/01.pdf](http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/covenant/permission/h23_0328/pdfs/01.pdf) 別紙1－12をご覧ください。)

-----

○意見・要望－ 9

東日本震災以降、民間会社では高速道路や鉄道はできるだけ陸側に引こうとしているときいたことがあります。吉野川のような河口テラスの脆弱な不安定な場所に橋を架けるのは防災上問題ありです。

◆回答－ 9

東日本大震災において、高速道路では大きな被害が見られず、防災道路としての効果を発揮したところであり、盛土区間では津波防波堤や津波避難場所として活用された実績も有しております。また、高速道路は防災上の観点において、道路構造物としての機能維持が要求されるものであり、橋梁構造物については必要な耐震性能を確保するために関連する諸基準を適用して設計を行っているものです。

-----

○意見・要望－ 1 0

委員がおっしゃった（橋ができて）プラス要因を具体的におしえてください。

◆回答－ 1 0

第2回環境部会の中で、過去の吉野川河口域は地形の変化が大きかったが、砂防ダム等による上流からの土砂供給の減少や、砂利採取がなくなったことによって、過去に比べて地形が安定した状態にあるのご意見を頂いております。それを踏まえて、橋梁の存在によって中規模な攪乱が発生することで、生物多様性を促進させる可能性があるとのご意見をいただいております。

-----

○意見・要望－ 1 1

鳥のエサ場への影響はないという説明、エサ場利用に関して調査データを示してください。右岸側橋付近隣の干出干潟では鳥利用が多いはず。左岸側橋建設現場にはアジサシが多数飛翔していましたが具体的に調査していないのであれば、しらさぎ大橋のデータでもって高速道路建設の環境要素に対する評価に関して説明するのはおかしいです！！

◆回答－ 1 1

説明資料のp.18 と p.19 に示したとおり、干潟の鳥類の餌場としての機能は、橋脚の存在、浚渫の実施によって河口干潟への地形変化が生じないことから、維持されると考えております。また、平成 25 年 5 月に実施した鳥類調査では、アジサシ、コアジサシの飛翔経路等を確認しております（第1回環境部会参考資料：<http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h25/0913/pdfs/03-2.pdf>）。

-----

○意見・要望－ 1 2

かつてアセスメントをしたのではないのですか？データを示してください。

◆回答－ 1 2

「徳島東部都市計画道路 1.3.2 小松島鳴門線 徳島東部都市計画道路 1.3.3 川内線環境影響評価書 平成 6 年 10 月」が、徳島県より公表されており、第1回環境部会において、同評価書の内容を報告しております。

-----  
○意見・要望－13

こんなにあいまいな議論と評価でもって2案に結論づけるのはきつねにつままれたような気がしてなりません。

◆回答－13

これまでに実施された検討会、部会では、橋梁形式を選定するための議論が交わされたと考えております。今後も検討会において、委員からのご指導・ご助言を頂きながら検討していきたいと考えております。

-----